
ふりかえる

花浅葱羽羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふりかえる

【コード】

N2345N

【作者名】

花浅葱羽羅

【あらすじ】

猫の死体を見たことで始まった女の子の思考。

田んぼに、ひかれて飛ばされた猫が血まみれで死んでいた。当時中学生だった私はそれが朝の、しかも登校途中であつたにもかかわらずにわざわざ家に帰って叔父に猫が死んでると伝えた。その平坦な声に叔父はなんとも言い難い顔をして、私に「教えてくれてありがとう」といつて私の頭を少々乱暴に撫でた。その後で、わざわざ私の見ていない時に保健所に電話した。

別段、私はその死んだ猫に何か思い入れも無かつた。そもそも猫という動物は私の家族にあまり好かれていないので、猫自体に縁があまり無かつた。なのでとても義務的なことだと思つた唯それだけで、実行したのだ。しかし、道行くまばらな人々は猫を見ないようにし、猫を見つめていた私を様々な感情が入り混じつた目で見たのを感じて疑問に思つた。どうしてそんな視線を受けなくてはならないのかが分からなかつた。私の中で私の動作全ては正常な人間の反応だつた。

私は死ぬことを暗い闇だとは思っていない。むしろ、とても神聖なものだと思つている。死んで人は終わりを迎えるのだ。生まれることが始まりなら、終わりは必ず必要だ。生まれることが神聖とか神秘的なことなら死ぬことだつてそのはずだ。それが私の自論だつた。

ある時、友達にそれを話すと眉を寄せて怪訝な顔をした。どうも納得がいかないらしい。友達はきつと、死ぬことはこわくて悪いことだと思つている人なのだろう。そのことに少しだけ可哀想（視野が狭いし世界が狭い人かもしれない）だと思つてからふと、猫が死んだことや叔父や友達のことを思い出して結論付けた。

唯、私の思うことは、人とは死を好むということで、結局人は「こわいこわい」と死から逃げようと走って逃げるのだが、気にはないのでちよつと後ろをふりかえる。それが普通なのだ。だってあのまばらな人々だって、死を認識した上で見ないようにしていたじゃないか。つまり気にかけているのだ。

私の中で勝手にこういうような漠然とした結論を付けた。そうすると、ぼんやりとしていた考えが整理されたような気分になって嬉しかった。

後ろをふりかえるのが多いか少ないかなのだ。

（やっぱり私は可笑しくない。）

(後書き)

猫が死んでいたってというのは実話です。それ以外はほとんど全てフィクションです。ふと、思い出したのでそれを材料に書いてみました。

とりあえず、朝あった猫の死体が夕方になつてなくなっていたのはその頃の私にとつてとても印象深かったです。文では消してしまいました(････)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2345n/>

ふりかえる

2010年10月10日07時57分発行